

2024年2月21日

三菱庭球同好会の皆様

三菱電機

HI 盃委員 松岡 信幸

第38回テニス日本リーグで三菱電機ファルコンズが5年ぶり4回目の優勝を成し遂げました。三菱グループ関係の皆様も足を運んでくださったり、YouTubeで観戦・声援を頂いたりとありがとうございました。

この大会は、シングルス2本、ダブルス1本の計3試合の団体戦（単複重複出場は不可）で行われます。2ブロックに分かれて12月に開幕し、1月まで予選8試合を戦いブロック上位4チームずつ計8チームが決勝トーナメントで優勝を争いました。

三菱電機ファルコンズは、2017年、2018年と連覇を成し遂げた後から4年間優勝から遠ざかっていました。ここ数年特に強化を図っているのがダブルスです。シングルスに清水悠太プロと（2021年全日本選手権優勝）高橋悠介プロ（2017年全日本選手権優勝）を擁していますが、昨今日本リーグでのシングルのレベルは上がる一方で、世界ランキング2人を上回る世界ランキング200位前後の海外選手が各チーム参戦するのが常になって来ました。

そのため1勝1敗で最後のダブルスに掛かるケースが増えて来ていました。三菱電機ファルコンズは、伝統的にダブルスは社員選手がその重積を担います。個々の力ではプロ選手のダブルスには敵いませんが、コンビネーションと戦術を磨く事でその壁を越える取り組みを常にしております。実際に今シーズンにダブルスに掛かった2試合（ブロック一位が掛かった試合と決勝トーナメントQF）では見事にチーム勝利に導いてくれ、決勝トーナメントでも3戦全勝という勝負強さを発揮してくれました。

また今年は応援にも特に力を入れました。夜のミーティングの後に選手、スタッフで色々と知恵を出し合い、来場者を巻き込んだ応援ができるようにと取り組んで来ました。その様な取り組みが身を結んで今回の優勝に繋がったと感じております。来シーズンは、連覇を目指しての挑戦となりますが引き続き、ご声援のほどよろしくお願い致します。

